

会津若松市少年少女発明クラブ

親子おもしろサイエンスショー

実施日 2010年11月13日
会場 市立河東学園小学校 多目的ホール
活動実施者 ●伊東 裕理 [工学M2]
●岩崎 藍子 [理学M2]

活動概要

「発明に关心を持ち、ものを見て考え、何かを発見し、工夫して新しいものを創るという発想を通じて、創造力や科学技術に対する興味・関心の動機づけ」として会津若松市少年少女発明クラブ課外講座「親子おもしろサイエンスショー」の講師として依頼を受け、企画から実行まで行った。「不思議がいっぱいの金属」というタイトルで伊東さんよりプラチナについて説明があり、その後、燃料電池自動車の模型を用いて児童と共に体験した。つづいて、「海のはなし」というタイトルで岩崎さんより海にまつわるふしげについて説明があった。最後にサイエンスクイズを行い、参加者全員には海の温度のクラフトのプレゼントを行った。参加者は小学生～中学生まで75名、関係者含め合計81名。

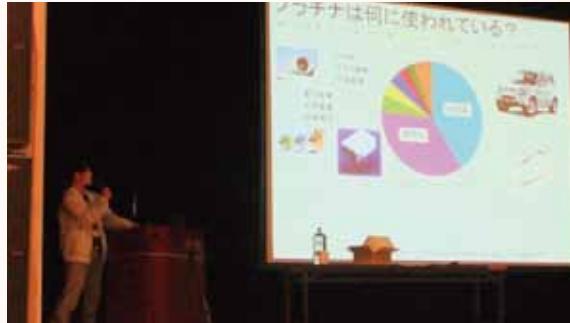


燃料電池で車が走る!!

燃料電池で車が走る様子を見てみよう!

発表資料(伊東裕理)

小学生を対象としたイベントは初めてで不安だったので、橋爪先生や岩崎さんからのアドバイスがとても参考になりました。また、岩崎さんの発表はとても分かりやすく興味をひく内容だったので、いいモデルとなりました。本番では、子供たちは私が思っていたよりも知識を備えており、実験を見学する態度にも興味津々でとても安心しました。今回の講演では、相手が子供だからと言って必要以上に構える必要はないことに気づきました。今回の経験を活かして、今後のセミナーやイベントをより充実したものにしていきたいと思います。講演中に飽きててしまう子供もいたので、彼らの集中をいかにひきつけるか、ということを考えていきたいです。(伊東裕理)



発表資料(岩崎藍子)

今回は自分の専門分野の「海」の話ということで、私自身わくわくしながら臨むことができました。地球温暖化の話に真剣に耳を傾けている小学生がたくさんいてうれしく思いました。しかしながら、一番子供たちが生き生きしていたのは実験とクイズ大会だったと思います。実際に目で見て、体験できる企画がやはり盛り上がるのかなと感じました。(岩崎藍子)

黒松市民センター

黒松どきどきキャンバス

実施日 2010年12月11日
活動実施者 ●中村 悠 [理学M1]
●村上 優佳 [理学M1]

活動概要

仙台市黒松市民センターより、「黒松どきどきキャンバス」の講師として依頼を受け、企画から実行まで行った。「地球をサイエンスするよ!!」というテーマで実施し、「放射線からわかる地球のふしげ」というタイトルではじめに中村さんより自然界にある放射線と人工の放射線について説明があり、その後、放射線測定装置を用いて体験した。つづいて、「～地球の神秘～有孔虫ってなに??」というタイトルで村上さんより微生物の化石について説明があり、参加した小学生が「有孔虫」の化石を顕微鏡で観察した。参加者は小学校5～中学3年生まで10名、市民センター関係者1名、推進室員1名、SA2名の合計14名。



講座レポート



学校での勉強とは違い、どう分かりやすく伝えるか、ということを深く考えさせられました。発表の対象が子供達という経験は初めてだったので、どれだけ理解してもらっているかとても不安で緊張しました。でも熱心にノートをとったり、実験に参加する子供達の姿に逆に力をもらったような気がします。楽しい時間を過ごすことができました。発表者である私たちが楽しむ、これが一番大切なかなと思います。とてもよい勉強になりました。(中村悠)



今回のイベントは私にとって初めてのイベントでした。ちゃんとうまくいくのか、子どもたちが楽しんでくれるのか、最初はすごく不安でした。当日は子ども達が熱心に話を聞いてくれて、興味を持っているのが伝わって非常に嬉しかったです。またイベントに参加してみたいと強く思いました。(村上優佳)